

事業所における自己評価総括表

公表

○事業所名	あいうえおん みらい		
○保護者評価実施期間	2026年1月5日	~	2026年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2026年1月5日	~	2026年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2026年1月5日	~	2026年1月23日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	1	(回答数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの発達状況や課題に応じた個別支援を行い、保育所・学校との情報共有や連携を大切にして支援を進めている。	訪問前に保護者や園・学校から情報を収集し、子どもの状況に合わせた支援内容を事前に検討してから訪問している。 支援の根拠を明確にし、専門的視点をもとに具体的な支援方法を提案するよう心がけている。	関係機関との情報共有をさらに充実させ、より一貫した支援が行える体制づくりに取り組んでいく。 支援の見える化を図り、記録の質向上や情報共有の効率化に取り組んでいく。
2	訪問先の先生方とこまめに連絡を取り合い、子どもが集団生活の中で安心して過ごせるよう環境調整や支援方法の提案を行っている。	支援後は必ず振り返りを行い、支援内容を記録・共有することで次の支援に活かしている。 定期的に職員間でケース検討を行い、支援の質の向上に努めている。	支援内容の振り返りやケース検討の機会を増やし、支援の質の向上につなげていく。
3	保護者の思いや困りごとを丁寧に聞き取り、家庭・園・学校と連携した継続的な支援を行っている。	子どもが安心して活動できるよう、環境調整や声かけの工夫を行っている。 保護者の思いを大切にし、家庭・園・学校が連携した支援につながるよう調整役を意識している。	保護者との面談や相談の機会を充実させ、家庭との連携をより深めていく。 個々の支援計画をより充実させ、子どもの成長に合わせ柔軟な支援を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の経験や専門性に差があるため、支援内容の統一やスキル向上が今後の課題である。	職員の経験年数や専門分野が異なることで、支援スキルや対応方法に差が生じているため。	外部研修や内部研修への参加を促進し、職員の専門性向上を図っていく。
2	関係機関との連携体制について、さらに円滑に進めるための仕組みづくりが必要である。	関係機関との連携が個別対応に依存しており、仕組みとしての連携体制が十分に整っていないため。	関係機関との連携方法を整理し、連絡体制や情報共有の仕組みを整えていく。
3	支援記録や振り返りに時間を要することがあり、業務効率の改善が求められている。	支援記録の作成や管理に時間がかかるており、業務効率化が十分に進んでいないため。	支援記録の様式や管理方法を見直し、業務の効率化を進めていく。